

2 育てたい生徒像を思い描く

☆学校教育目標

学校教育目標は、学校の特色や生徒、家庭、地域の実態に則して設定されています。これを中心に、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくのが、カリキュラム・マネジメントです。

☆スクール・ミッションと スクール・ポリシー

神奈川県では、各学校のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）での意見交換を基に、各学校の課程ごとに「スクール・ミッション」を策定し、各学校の存在意義や期待される社会的役割等を示しています。

それを受けて、どのような資質・能力をどのようなカリキュラムで育成するのか、どのような中学生等に入学してほしいのかを示し、生徒や保護者、地域社会に対し、各学校の魅力・特色を明らかにしたものが「スクール・ポリシー」です。

所属校の「育てたい生徒像」の把握のために、学校要覧や所属校のWebサイトでこれらも確認しましょう。

学校教育目標を踏まえること

日々教室で生徒と向き合っている皆さんは、生徒をどのような姿に導いていこうと考えていますか。理想とする生徒の姿＝「育てたい生徒像」のイメージをもつことにより、自身の教育活動に明確な方向性が生まれ、生徒に対して一貫した指導ができるようになります。

学校には学校教育目標が設定されています。「育てたい生徒像」は、多くの場合、各学校で学校教育目標に根ざしたものと示されています。各学校の学校教育目標と「育てたい生徒像」を意識しながら、日々の教育活動を行うことが求められます。

学校教育目標は、学校の大きな道標であり、その目標の実現に向けて、全ての教員が同じ方向に進むことが重要です。同僚と目標を共有することで、互いの理解を深め合うことができるとともに、学校全体で協力しながら、教育活動をより良くし続けていくことができます。

目標設定にあたって

年度当初に、学校教育目標を基に教科目標、個人の目標について考え、その目標の実現に向けて努力していることでしょうか。私たちは常に、「育てたい生徒像」という目標を明確にもって授業に臨む必要があります。

学校教育目標から、「育成したい資質・能力」がどのようなものか捉え、自分が担当する教科・科目の目標と照らし合わせ、目標実現に向けて、単元（題材）を構想することが大切です。

→ 2章－1～4

個別支援が
必要な生徒
への対応を
考えよう

自立した社会参加に向けて

自分の意見を持ち、自分で選択し、判断や行動に責任をもつ機会を設ける等、学びの過程で、自己肯定感が高まるよう工夫しましょう。



教科で育てたい生徒像

「どのように授業をすれば良いか」という授業技術について考える前に、「どのような生徒を育てたいか」そして、そのために「どのような力を身に付けさせるか」ということについて考えましょう。

「育てたい生徒像」は学校教育目標に根ざしたものです。ここがはっきりしていると、授業の組立てが明確になり、生徒に伝えたいことがはっきりした分かりやすい授業となります。

<例>「神奈川県立かもめ高等学校」の場合

学校教育目標

○ 自分の考えを、臆することなく発信できる人

-
-

自分なりの
考えをもつ

失敗を恐れず
挑戦する

相手意識をもって
より良く伝える

学校教育目標を基に、「育成したい資質・能力」を具体的に捉えることが重要です。

学習指導要領（各教科・科目等）

- ・ 教科の目標
- ・ 科目の目標
- ・ 指導事項（教科で育成を目指す資質・能力）

教育課程の基準である学習指導要領に基づいて、授業の計画・実施・改善を図ることが大切です。

授業での実践

- ・ 単元（題材）の目標の設定
- ・ 言語活動を取り入れた授業展開
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の視点 etc...

単元（題材）を構想する際には、「育成したい資質・能力」の育成を意識することが何より大切です。

「活動＝目標」？

例えば、「美術・工芸」の授業において、作品の制作自体が目標になっていませんか？

陶芸の授業を例にすると、「陶芸をさせよう」ではなく、「陶芸」という学習活動を通して身に付けさせたい力を育むことを目標とします。この場合、「子どもが使いやすい器」といった題材により目的や機能などを考えた表現力の育成を目標に設定したり、「自分の気持ちを表した造形（抽象彫刻）」といった題材により感じ取ったことや考えたことを基にした表現力の育成を目標に設定したりすることなどが考えられます。